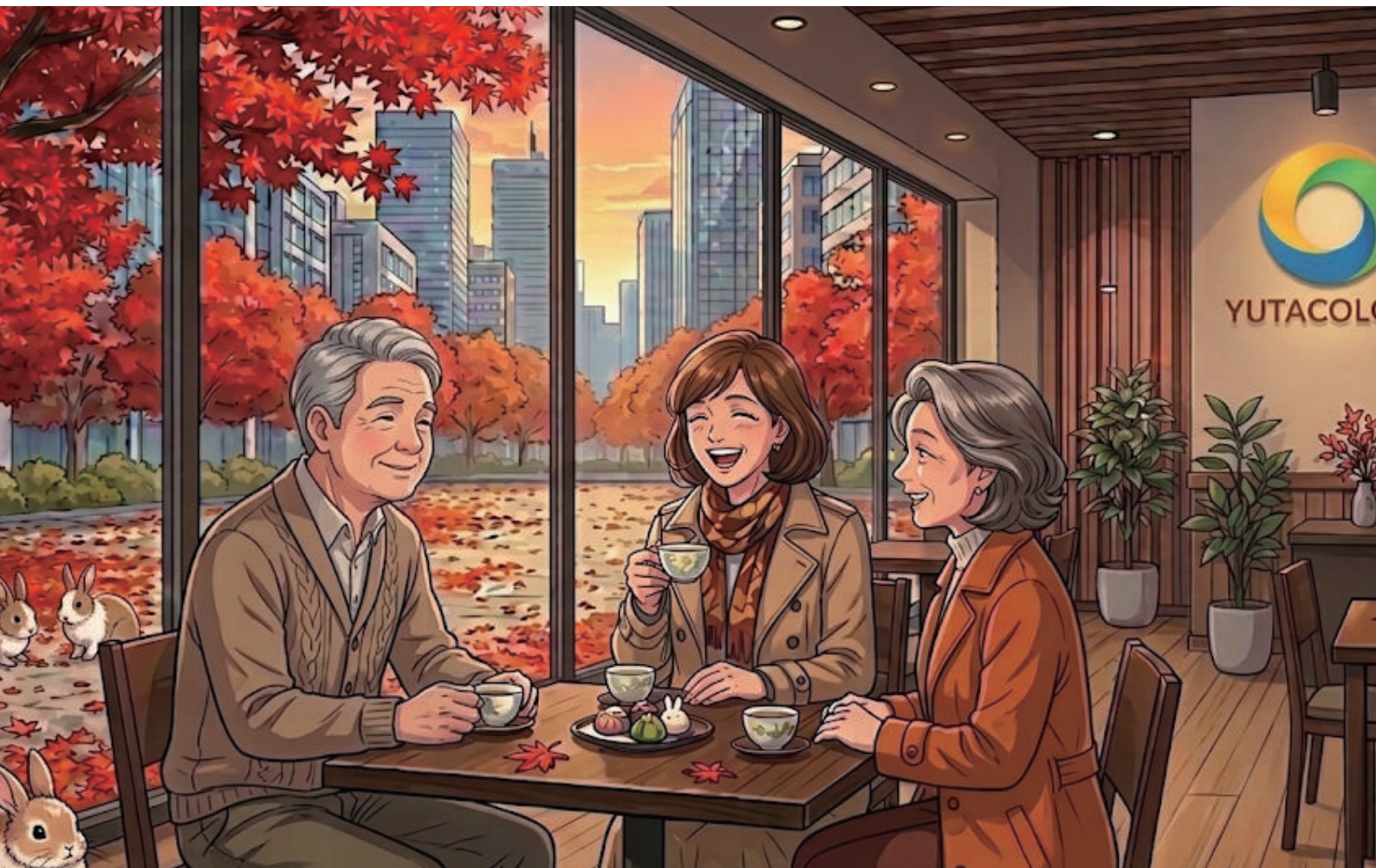


Continue

YUTACOLOGY'S communication press magazine

vol.41
2026 FALL



生成AIを使用して制作した画像です

巻頭対談

自社らしい「ウェルビーイング」を
楽しみながら推進する！

株式会社岡崎土質試験所 代表取締役CEO 朝倉 薫様

特集

第26回 安全宣言の日を開催しました

株式会社岡崎土質試験所
代表取締役CEO
朝倉 薫様

ユタコロジー株式会社 代表取締役
酒井 秀京

テーマ

自社らしい 「ウェルビーイング」を 楽しみながら推進する！

2030ビジョンを掲げ

「Make Tomorrow Go Better - 今日よりも良いと思える明日を創る - 」
を合言葉に「建物と人のキレイと健康」に寄与する企業を目指している当社。
今回はウェルビーイング分野で様々な賞を受賞されている
株式会社岡崎土質試験所 朝倉CEOにお話を伺いました。

会社WEBサイト 事業内容
<https://okazakidoshitsu.co.jp/>



1991年、叔母が営む土質試験所に入社。出産・育児を機に一度退職し、2001年にパートとして復帰。
2014年に取締役、2019年に取締役副社長に就任。創業者から経営を引き継ぎ、現在は株式会社岡崎土質試験所代表取締役CEOとして、働きやすい職場づくりや人材育成、健康経営を推進している。

株式会社岡崎土質試験所
代表取締役CEO
朝倉 薫様

社員と「本気で向き合うことで「自社らしさ」を創りあげた

酒井 この度はインタビューの機会をご提供いただきありがとうございます。

企業のウェルビーイング実現には健康課題解決を含めた「働く環境改善」とキャリア形成の両輪で推進することが重要であると発信している当社にとって、それぞれの認証取得はもちろんのこと、その中でも優秀でおられる賞を受賞されている貴社に色々とお話を伺いたいと思いこのような機会をいただきました。はじめに、なぜウェルビーイングを推進されようと思ったのか教えていただけますか。

朝倉 当社は建設業のお客様からご依頼をいただいて地盤の造りや強度等の調査を行う会社です。叔母が創業者で私と2人で会社をやってきたのですが、有難いことにお客様からたくさんのご依頼をいただくようになり、従業員が一人二人と増えていきました。叔母は従業員に対して「誇りをもって健康で働いてもらう」「従業員の人生を預かっているからには責任をもって対応する」ということを常々口にしていました。

叔母から経営を引き継いでからは、その想いを受けついで私なりのウェルビーイング実現に取り組んでいます。

酒井 具体的なキッカケにはどのようなものがあったのでしょうか。

朝倉 キッカケはお休みについてでした。当社は建設業に準ずる働き方をするものですから、当時は、業務の性質上、休日も少なく、有給休暇も取りづらい状況がありました。お休みが自由に取れる会社にするため、真っ先に取り組んだのが属人化の排除です。『あの人でなければ分からない』という属人化をなくすため、業務を見える化し、複数の社員が対応できる体制づくりを進めました。当時は右も左も分からない状態でしたが、勉強したり専門家に問い合わせたりなどしてスキルを見える化するスキルマップを作り、各社員と面談を行いながら少しずつ出来ることを増やしてもらい、次第に全社員が同じレベルで業務を完結できる体制を整えることが出来るようになりました。このような流れの中で評価制度の見直しや働く環境整備をおこなうこととなりました。

酒井 当社も多能工化を目指しているところですが、その推進にはどのような苦労がありましたか。

朝倉 情報共有の徹底と評価制度ですね。最初は情報の共有不足によるトラブルが続出しました。休んでいる最中に「聞いていない」というトラブルが起きるたびに、私は社員に「休みたければ、自分の情報を開示しなさい」と厳しく伝え、情報の私物化を許さない姿勢を貫きました。一方で、このような取り組みの中で従業員との面談を重ねるうちにスキルと人事評価を連動させる必要性も痛感



▲社内研修の様子。職業能力評価を通じて従業員の強みと改善点を的確に把握し、個別にカスタマイズされたキャリア支援を展開されていることが評価され、厚生労働省の表彰事業「グッドキャリア企業アワード2024」でイノベーション賞を受賞されました。

しました。年に4回、私自身が面談をおこなうのですが、頑張りを給与として反映できるとより自分事として考えてくれるようになります。焦って大手企業の高度なスキルマップや目標管理制度を真似て導入した結果、自社に合わず、運用に無理が生じたこともありましたが、それでも真摯に制度の見直しを図り続け、誰が見てもスキルと評価の関係性が理解できる評価制度になりました。現在の人事評価はスキルだけでなく技術・人格・目標管理の3本柱で評価するようなものになり、よりスキルアップを目指してもらい易いものとなりました。

酒井 従業員様との面談を通じて泥臭く改善活動を続けてこられたのですね。

朝倉 当初の面談は私ばかりが話していて、社員の考えや希望がほとんど話してもらえませんでした。それではいけないと面談方法を学び、「社員が8割話す(8:2の法則)」を意識した対話へと切り替えたところ、次第に自発的に発言してくれるようになり、自社らしい制度づくりが大いに前進しました。面談スキルや評価制度の見直し等を通じて、自分自身が経営者として学び続けなければならないこと、そして評価者もスキルアップし続けなければならないことに気づき、以降は年に一度、外部講師を招いて1日かけてのOFF-JT教育を行うなど教育機会を増やす取り組みもおこなうようにしています。

ウェルビーイング推進は「楽しみながら」が大切

酒井 いま伺ったようなことの積み重ねが認証取得や各種表彰に繋がっているのですね。

朝倉 そうですね。私は認証取得を「会社の通信簿」と捉え、当社の現在地を可視化するものとして認識しています。数年に一度、更新のために情報を整理し直すことで、当社の現状や時代が求めていることなどがわかるので制度の見直しをおこなう良い機会になっています。そのため、そこで一旦落ち着くのではなく、常に改善を続けることを大切にしています。私自身も「健康経営エクス

パートアドバイザー」の資格を取得し、積極的に改善活動に関わりながら、自社の実態に合わせて社員が楽しみながら取り組むとができる、活きた施策にすることを心掛けています。

酒井 楽しみながら関わることでできる具体的な施策を教えてくださいいただけますか。

朝倉 例えば「社内通貨」があります。もともと「ありがとうポイント」という形で社員間のコミュニケーションやエンゲージメント向上策としてスタートしたものがあったのですが、導入後に社員のリアクションを確認していくと「お返ししなければいけない気持ちになる」や「同じくらいポイントをあげたい人が複数出たときに困る」などの声があがってきました。では違う角度で何かできないかと検討し、別で検討していた歩数計アプリの考え方と組み合わせて自分自身で完結するポイント制として「社内通貨」に行きつきました。月平均の歩数に応じてポイントを付与し、そのポイントを健康・運動、身体ケア、育児支援、介護支援に関するもの、例えばウォーキング関連商品やこどもの運動用品、外遊び用品、おもちゃ等の育児用品、介護用品などに利用できる制度としています。これをさらに個人成績ではなくチーム戦として取り組むことで、参加の輪も広がり、全社的に前向きに楽しく取り組める施策とすることができました。実際に活用してくれる社員もとても多いんですよ。

酒井 皆さんが楽しく取り組んでいる様子が目に浮かびます。今後目指されている貴社の姿を教えてください。

朝倉 当社は女性が創業した会社という成り立ちもあり、女性活躍にしても健康経営にしても業界を先導していけるような取り組みを継続していきたいと考えています。当社はウェルビーイングコーディネーターやDX推進担当など全社員に役割をもってもらい組織運営にかかわってもらっています。各種制度はもちろんのことそれら社内の役割も通して、もっといきいきと楽しく働くことができる環境にしていき、これを自社以外にも広げ、地域社会にも貢献していければと考えています。

酒井 本日は貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました。



▲社内ウェルビーイング推進担当の内山さん。ウェルビーイングコーディネーターとして健康経営推進を担当されつつ管理栄養士としても社員の健康相談にのられています。

～対談を終えて～

「人生100年時代をどう輝くか」という観点から「今日よりも良いと思える明日を創る(ウェルビーイング)」会社を中期ビジョンに掲げ、誠実・挑戦・共感創造でお客さまの「生きがい」「働きがい」に寄与したいと考えている当社において、岡崎土質試験所様の取り組みは大変勉強になりました。建物と人のキレイと健康をお届けし、多くの企業様へ貢献できよう尽力してまいります。このような貴重な機会をいただき、ご縁に感謝いたします。

第26回

安全宣言の日を 開催しました

8月21日(金)
第26回「安全宣言の日」を開催しました。
13:15-14:45 @サイプレスガーデンホテル(金山)

平成12年8月22日に高所作業(3F)からの転落事故を発生させてしまったことから、二度と重大事故を起こさないことを目的に毎年8月22日前後に開催しております。

今年は主要な協力会社様(15社)にも参加いただき、業務における安全について確認しあいました。

また、毎年実施している安全標語・ヒヤリハット事例の応募作品の表彰もおこないました。



酒井代表メッセージ



当社「安全宣言の日」の目的は、平成12年に発生した転落事故を機に、二度とこのような業務災害を起こさない決意を新たにすることであり、協力会社各社様をお招きし、「TBM・KYの実施」「作業手順の順守」、「三大安全運動」や「安全パトロール」の大切さを確認することを毎年おこなって参りました。さらに、近年は地震等の災害への対応として「事業継続力強化計画」の認定により、BCP対策を積み上げているところです。安全は、自社の安全意識の向上や具体的な対策を講じることと同時に、関係各社様との協力・連携を構築も重要だと考えています。その意味で協力会社様にご参加いただき、安全を考える日として、当社のヒヤリハット事例や安全標語の紹介、当社災害事例、その他ISO等の社会的取り組み内容を共有していただく大切な機会であり、今年も多くの企業様にご参加いただきましたこと心より感謝申し上げる次第です。

当社はウェルビーイング(心と身体の健康と社会との繋がり)で「今日よりも良いと思える明日を創る」会社として、引き続き安全・安心を皆様と共創できるよう努力して参りますので、引き続きご指導の程よろしくお願い申し上げます。

ご出席協力会社様

AG株式会社	三和清掃株式会社	日本空調システム株式会社	丸八興業株式会社
エレベーターメンテナンス株式会社	有限会社昭明クリーナー	株式会社パートナー	ライノセラス総業株式会社
西菱冷暖房株式会社	有限会社昭和装備	ファルコン株式会社	株式会社リンデンクリーナー
サニター株式会社	株式会社ソウビクリーナー	株式会社プロマジック	※五十音順・敬称略

業務の安全について 総務部部長 久米 明日樹

1) コンプライアンス事案

労働安全衛生関連の法改正について

3) 協力会社様へのお願い

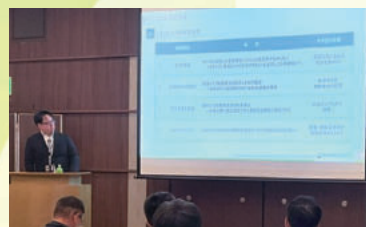
法令と契約仕様の順守について

2) 弊社内発生事故の共有と再発防止策

直近1年で発生した事故報告と協力会社へのお願い

4) BCP策定の現状報告

南海トラフ巨大地震を想定したBCP策定の現状と課題



その他発表内容

・各種報告:総務部部長 久米 明日樹

2030ビジョンの実現にむけ、人財・技術・共創の観点から、働き方改革の推進とそれを支える業務のデジタル化を中心に、多様性のある人財が活躍できる会社になるための現在地を報告いたしました。

また、その活動から生まれたWell-being事業についての現在地も報告いたしました。

・ISO報告 : 業務部部長 永田 圭司

主に当社の重点項目と維持管理項目の進捗について報告しました。

SDGs経営を掲げる当社は、安全・品質に加えて環境配慮も積極的におこなっていくことで、ステークホルダーの皆さまに安心いただける運営を心がけます。

安全標語・ヒヤリハット事例表彰

弊社内で毎年、この「安全宣言の日」にあわせ、クリーンクルーを含めた全社員から作品を募集している、社内で最も多くのスタッフが参加するイベントです。

今年は安全標語が117作品、ヒヤリハット事例は56作品の応募がありました。

安全標語



つまずくぞ!
つま先あげて 足あげて

前田 みづほ さん



危ないぞ 言える勇気と 聞く心

森 みなみ さん



酷暑日の がまんは禁物 命とり

神谷 春子 さん

忘れるな ルールがあること 守ること
みんなで築く安全意識

平山 育美 さん

ヒヤリの神様 そっと耳打ち
「やめときな」

水野 明子 さん

ヒヤリハット事例



改修工事後に設備が変わった
慣れた建物での清掃作業

佐藤 成子 さん



両手がふさがっている状態で階段を下りる
時のゴミ捨て作業

酒井 早苗 さん



背を向けながらのモップ掛け作業

鈴木 訓子 さん

扉を開けた先にお客様がいる
かもしれないという考え方

鶴野 まさ子 さん

転倒しかけてしまった雨上がりの水滴除去作業

兒島 一馬 さん

作業時に気付いた日々謙虚でいることの大切さ

市野 恵子 さん

ダスターモップ掛け時の注意点

立石 照美 さん

オリジナルロコトレダンスのリリース



ビルメンテナンス業界全体でも課題となっている従事者の躓き・転倒による労災や長期休業による離職については当社も漏れず課題となっております。

その解決策として当社では厚生労働省も啓発しているロコトレ(ロコモティブシンドロームを防止するための運動)を楽しみながらできるようオリジナルダンスを開発しました。この日、1作目のリリース記念として参加者全員でオリジナルロコトレのダンスをおこないました。

閉会の挨拶 顧問 鷺見 直

その他:チーフ・リーダー研修を開催しました

今回、当社の歴史上はじめてアルバイトスタッフ役職者に対する専門の研修をおこないました。

近年の法律改正やコンプライアンス関連の対応等、アルバイト役職者を取り巻く環境も大きく変化しております。

お客様に安心して業務をお任せいただくために全社一丸となって改善活動に努めてまいります。



弊社の業務Gという技術部隊で、直近でおこなった作業を2つご紹介いたします。

BM NEWS

工場内の高所除塵作業をおこないました

作業内容は、工業内の高くて手の届かない場所、H鋼やケーブルラック、照明等機器の埃をフラワークリーンや除塵用のブラシで下に落とし、床に落ちた埃を回収する作業です。

また、脚立で手が届く機械の上部は掃除機にて除塵をおこないました。

作業をする際はタワーリフトを使用したり、壁際に設置されたラックやH鋼を足場にして作業をしたりするため、全員がハーネスを着用し転落に注意して作業をおこないました。

ポイント

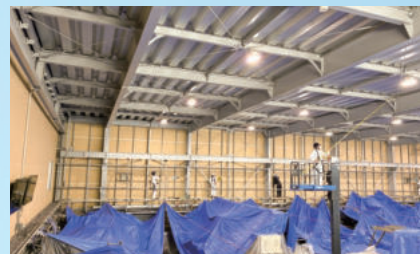
- ・埃を落とす際、機械に埃が入らないように養生をおこなう
- ・安全装具・保護具の装着：
 - ①ヘルメット… 頭部保護のため、脚立作業を含む全高所作業で着用。
 - ②フルハーネス… 落下抑制器具。万が一の転落時も地面への衝突を防ぐ「命綱」として機能させる。
 - ③適切なシューズ… 動きやすく、足元が安定するものを選定。
 - ④防塵対策… 埃を吸い込まないためのマスク、および作業服の保護（つなぎ等の着用）。
- ・事前の足元確認：

装備をしていても転落すれば負傷のリスクがあるため、移動経路や足場の状況を事前に徹底して確認する。
- ・適切な人員配置：

作業場所の混雑（渋滞）は、作業効率を低下させるだけでなく危険度を高める。エリアごとに人数を適切に振り分ける。
- ・設備保護：

工場内の精密機械等に埃が飛散しないよう、カバー掛けなどの養生を計画的におこなう。
- ・安全三大運動の徹底

視界を確保しづらい作業であることや酷暑による判断能力低下があるかもしれないことを念頭に、TBM・KY、声掛け、指差呼称の徹底をし事故防止をおこなう。



BM NEWS

外壁洗浄作業を行いました

今回のご依頼は壁面にこびりついた汚れの除去をする作業でした。

共用通路に面したところにある外壁であったため、通行される方ならびに他エリアに汚水や薬剤が飛散しないようプラスチック板及び養生シートを使用しておこないました。

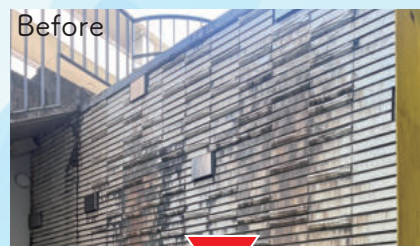
作業自体は、外壁面の表面や目地の汚れを高圧洗浄機を使用して下地処理をした後、タイル表面の固形物をケレンで一枚ずつ削り落としました。

この後に酸系の薬剤をタイル表面にハケで塗り、垂れ跡や塗膜を除去します。それでも剥がれない場合はケレンで削り、また薬剤を塗り込みます。

この作業を繰り返しおこなう事で綺麗な仕上がりとなります。

作業後の報告では、お客様から「新築みたいだね!」と喜びのお声をいただくことができました。

お客様に喜んでいただけるよう、安全を第一に、誠実な作業でこれからも挑戦を続けてまいります。



空間と人のキレイと健康へ寄与する事業を推進するユタコロジー。
Well-beingな取り組みをお知らせいたします。

REPORT 1 Pマークを取得しました

前月号からの続報です。7月17日（金）開催された審査機関による認証発行に関する審査会を無事通過し、正式にプライバシーマーク認証を受けることが決定しました。

認証取得に向け、募集時の個人情報利用に関する同意から始まり、社内での情報取り扱いに関する規程作成・周知、情報漏洩帽子を目的とした各ツールの導入など多くの改善をおこなうことができました。

今回得た知見を活かして改善活動を継続し、ステークホルダーの皆様に安心いただける会社になれるよう、これからも挑戦を続けてまいります。



REPORT 2 総務部部長久米がなごや環境大学で講師を務めました



7月17日（金）、なごや環境大学が開催するオンラインSDGs勉強会にて総務部部長 久米が講師を担当しました。

当日は「人」と「環境」を磨き、明日を創る経営術-「今日よりも良いと思える明日を創る」会社-と題打ち、当社が創業以来大切にしてきたことやそれをビジネスにどう結び付けているのか、どのように新規事業開発に繋がったのかなど45分の持ち時間で受講者の方々にたくさんの物を持ち帰っていただけるよう精一杯お話しさせていただきました。

REPORT 3 第2回AI研修を開催しました

8月21日（金） 13:00-17:00 第2回AI研修を開催しました。

6月に開催した前回と同様に全社員を対象にAI活用に関する研修をおこない、今回は「マルチモーダルを活用した「情報変換と整形」」をテーマに、画像・音声・PDF等を読み込んだの自動処理や業務におけるAIテンプレート設計などを学びました。

生産性向上によりステークホルダーの皆さまにより大きく貢献できる組織にまいります。

REPORT 4 防災訓練を行いました

9月1日（火）8:40～ユタコロジー本社で防災訓練をおこないました。

南海トラフ巨大地震を想定したシナリオで実施し、近隣にある避難場所も確認しました。

また、昨年に引き続き会社に常備している防災グッズの使用方法も共有。

今年の新たな取り組みとして、直近1年で発生した震度5強以上の地震発生・被害状況を踏まえ、会社・個人でおこなうべき防災対策について協議しました。



Well-being事業部

のご紹介

Well-being事業部では“人生100年時代のキレイと健康”をキーワードに企業様のウェルビーイング推進支援をおこなっております。
最近の支援内容をご紹介しますので、貴社でもぜひご参考にいただければ幸いです。

女性特有の健康課題セミナー

今年は“女性特有の健康課題”という分野について、健康診断で新たな対応を求める動きがガイドライン化されたり女性活躍推進法改正に伴い「くるみんPlus」という新たな認証ができたりと大きな動きがある年となりました。

これを義務的な対応で終わらせず、従業員様の働く環境改善に大きくお役立ていただけるコンテンツとして研修会をご用意いただいております。

特に健康経営の中でも優良事例として取り上げられている「生理痛体験会」は人気で、性別や役職階層に応じたオーダーメイド設計で好評をいただいております。



運動/睡眠の質向上などの幅広いワークショップ

運動をはじめとする様々な健康経営に関連するコンテンツも開催の狙いや受講者属性によりご提供が可能です。

また、近年注目されている「睡眠の質」についてもオリジナル商品「Special Eye Comforter（シルクアイマスク）」を販売している関係で深い知見と多くの連携先がございます。

認証取得だけにとどまらない自社ブランディングに繋がる施策をお考えの企業様はぜひ相談くださいませ。

「働きがい」醸成ワークショップ

当社では従業員様のウェルビーイング推進について「働く環境改善（健康課題解決含む）」と「キャリア形成」の両輪で取り組まれることを推奨しております。

特に中小企業では大企業と比べて“キャリア形成”に関する啓発や支援に大きな差が生じているという社会課題を背景に、従業員様の定着や働きがい、エンゲージメント醸成につながるキャリア形成支援に関するワークショップをおこなっております。

